

紙面紹介

- 1面 食料・生活支援 震災から10年に春闘の現場から福保券/出版労連/電機 最賃
- 2面 青年協大会から/女性の労働実態 組織宣伝
- 3面 東京今昔 交差点 パズル 相談の窓
- 4面

E-mail lapaz@chihyo.jp
URL http://www.chihyo.jp

TOKYO はたらく仲間

216

2021年4月15日
(毎月15日発行)

発行 東京地方労働組合
評議会(東京地評)

定価 1部40円(送料別)

〒170-0005 豊島区南大塚 2-33-10
東京労働会館

TEL 03(5395)3171

FAX 03(5395)3240



がれきの上で献花
宮城県名取市・蘭上地区



山下千佳さん

東京対策連の活動は震災が起きた10日後、3月21日に千葉真旭市・銚子

◇ ◇

仙台から元河北新報社労働組の役員が駆け付け、津波被害の実態をたぐさんの映像で紹介した。定員60名の会場は席が足りない状態になった。

被災地調査と支援をもとに、代表世話人の千代崎一夫と私は同年9月「大地震に備える!! マンションの防災マニュアル」東日本大震災の教訓から「(住宅新報社)、16年には改訂版を出版、

日本科学者会議の12年6月「地震と津波」(本の泉社)にも執筆。被災地報告・防災学習会は3年間百回以上となった。被災地にはできるだけ早く駆け付け、被害の状況を把握し、専門的な知

識や経験など意見交換をする。どんな支援ができたのかを検討して具体化する。顧問の坂巻幸雄さんの「まず自分の足で被災地をまわる」という言葉に背中を押され、私たちは行動をしているように思う。

どんな「まち」をつくるのか

震災から10年、今年3月23日、24日に宮城県を中心に復興の様子を見てきた。「暮らしや生業がはじまるのはこれから」「どんな「まち」をつくるのかはここから」と感じた。支援の継続と自分たちのまちの防災への思いを新たにしたい。

東日本大震災後、いち早く支援活動に入った「災害被災者支援と災害対策拡充を求める東京連絡会(東京対策連)」世話人で新建築家技術者集

団(新建)東京支部所属の山下千佳さんに当時を振り返り、今の課題について寄稿いただきました。

東日本大震災から10年 自分の足で被災地まわる 炊き出し&相談会が63回 東京対策連・山下さんに聞く

報告会の翌日から7日に仙台市、名取市の蘭上地区、石巻市を中心に現地に入り、名取市の避難所に支援物資を届けた。

き、調査や支援活動を行い、宮城県対策連と県民センターによる「炊き出し&なんでも相談会」(63回開催)には機会をつくることは参加をした。また音楽家と一緒に演奏を届けることも各所で行った。

中央メーデーは約2千人が代々木公園B地区でのリアル参加とオンライン中継を結びます。三多摩メーデーは井の頭公園で10時開会です。

2度目の食料・生活支援—9割が女性 雇用不安・収入減が浮き彫り



食料の受け取りに並ぶ



暮らしのアンケートを聞き取る

3月30日午後、東京労働会館内(豊島区南大塚)で「コロナにまけない!食料×生活支援プロジェクト」を開催しました。よみかけ団体は東京地評、東京民医連、東京社保協など。12月に続く2回目の取り組み。今回は食料・生活用品・学用品などの無償配布とともに、相談やアンケートに力を入れ、生活困窮者の実態と要望を的確につかむことに努めました。

当日は234人が来場し、9割が女性、全体の6割が20歳未満の子どものを持つひとり親世帯でした。また、全体の7割がこの1年間で月収が減ったと回答。

「一年間に何度も職場が変わった。辞めさせられた」という人もいます。移住労働者も多く、春休みで親子連れも目立ちました。

今後、分析を深め、支援制度・政策要求につなげていきます。今回の支援プロジェクトも、行政と地元の協力を得ながら取り組むことに注力。東京都産業労働局などから相談・就労関連資料が提供され、豊島区、文京区から情報発信の協力がありました。

力をいただきました。実行委員では、助け合いの「共助」の取り組みにとどめず、行政の「公助」の改善・充実を求め、地元経済と共同する取り組みとして発展させることをめざしていくとしています。

春闘 厳しい回答 上積みへ運動が前進

国民春闘に結集する組合の回答集計では、新型コロナウイルスの影響も受けてベースアップゼロも多く、生活向上に遠い状況にあります。上積みへ向けて4月も粘り強い交渉が続いています。取組みでは、要求提出組合が52.7%、スト権確立が63.8%など、この数年のうちでも高い水準の到達があり、各組合での職場討議、構えの強化と奮闘が見られています。

制度諸要求の獲得ではコロナに対応して厳しい環境で働く人に対する慰労金・感謝金の支給、有休取得の改善、育休対象の拡大、再雇用処遇改善、初任給引き上げなど前進面が広がっています。一方で大手企業の回答状況は低額回答が続き、メディアも「賃上げの失速は今回限りに」(読売社説3月18日)と、批判的に報じました。

リアルとオンラインで生活と権利を守るメーデー

第92回メーデーは、コロナウイルス感染の猛威がつつき、医療体制は崩壊の危機、感染収束の方向性が見えないなかで、いのちと健康を守ることが最優先して開かれます。解雇・雇止めをはじめ大量のリストラ、中小企業の倒産の急増、とく



4月中旬から事前配信、当日はライブ中継

働くものの団結で生活と権利を守り、平和と民主主義・中立の日本をめざそう!

第92回メーデー
2021/5/1(土)
代々木公園野球場